



# キャンパス名称の変更と学部について

東海大学では2022年4月に「日本まるごと学び改革」として19学部75学科・専攻・課程から23学部62学科・専攻に移行しました。この改革で湘南キャンパスには、国際学部、経営学部、児童教育学部、建築都市学部、静岡キャンパスには人文文学部、熊本キャンパスには文理融合学部が新たに設置されました。

また、2023年4月からはこれまでの耐震化工事などの影響から、観光学部を品川キャンパスへと移転しました。

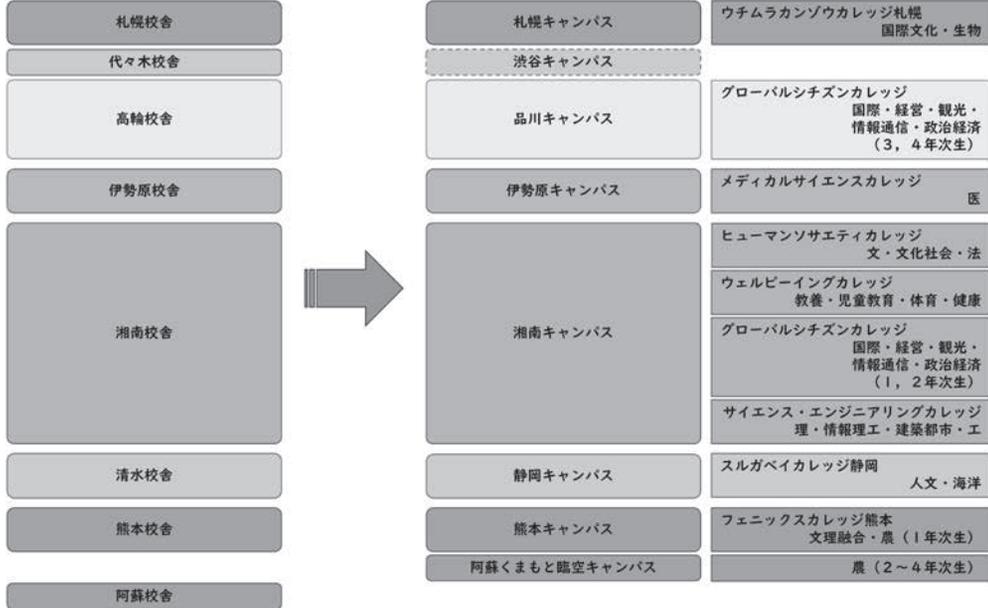
この改組において、グローバルシチズンカレッジの国際学部、経営学部、観光学部、情報通信学部、政治経済学部については、1、2年次生が湘南キャンパス、3、4年次生が品川キャンパスで学ぶこととなりました。農学部についても、1年次は熊本キャンパス、2、3、4年次は阿蘇くまもと臨空キャンパスで学ぶこととなりました。

ここで、キャンパスや校舎といった名称が出てきていますが、現在ではどのように変化したのでしょうか。これまで、校舎という名称とキャンパスという呼称がありました。例えば、湘南キャンパス・湘南校舎、湘南キャンパス・伊勢原校舎、九州キャンパス・熊本校舎などです。2023年4月からは名称・呼称をキャンパスに統一し、7キャンパス体制となりました。北から、札幌キャンパス、品川キャンパス、伊勢原キャンパス、湘南キャンパス、静岡キャンパス、熊本キャンパス、阿蘇くまもと臨空キャンパスとなります。

2022年度より運用しているカレッジ制についても湘南キャンパスの6カレッジを4カレッジに統合しました。キャンパスの名称とカレッジの配置、カレッジの学部については図「キャンパス名称の移行と学部」をご覧ください。

ここで現在の事務組織についても少しふれておきます。2022年の改組、カレッジ制の導入に先立ち、2021年4月に事務組織の改組も行われました。これまでの教務課、学生課、事務課などの縦割り組織から、学生のワンストップサービスを目指したカレッジオフィス、センター、ビーワンオフィス、キャンパスサポートオフィスの事務組織へと変わりました。2024年現在、カレッジオフィスは他キャンパスも含めて9オフィス。ウチムラカンゾウカレッジ札幌オフィス(UKCO)、

キャンパス名称の移行と学部



メディアカルサイエンスカレッジオフィス(MSCO)、ヒューマンソサエティカレッジオフィス(HSOC)、ウェルビーイングカレッジオフィス(WBCO)、グローバルシチズンカレッジオフィス(GCCO)、サイエンス・エンジニアリングカレッジオフィス(SECO)、スルガベイクレッジ静岡オフィス(SBCO)、フェニックスカレッジ熊本オフィス(PCO)となりました(カッコ内のアルファベットは略称)。センターは湘南キャンパスにキャンパスライフセンター(CLC)、総合教育センター、スポーツプロモーションセンター(SPC)、学長室となっています。

東海大学の100周年を見据え、マスタープランに基づいて改組改革を行い、まだまだ前進する東海大学として今後も成長をしていくことを期待しています。

## 湘南キャンパス近隣の飲食店で感じる事

小林 一雄 (72卒)

最近湘南キャンパス周辺では閉店される飲食店も多く、卒業生たちが慣れ親しんだ屋号が消え始めています。その多くはご主人はじめ支えて来られたご家族の方たちが高齢になつてお辞めになるケースが多いようです。そんな中で掲示門を出て1〜2分の所にある中華料理店「華仙」は昨年ご子息様が引継ぎされ、新たなスタートを切られたとお聞きしたのでお訪ねしてみました。

先代のご主人内野清一さんは私と同年代で「華仙」は1980年10月からはじめられたとの事です。しかしお話を伺うと実はお母様が既に今とは違う名前前の「おふくろ食堂」として1965年から5年程飲食店を営んでいたとの事で、多少フランクはあるものの引き継いだ現在の店主の頭太郎さんは三代目になるとの事で驚きました。

私の知る限り湘南キャンパス周辺でこれだけ長く飲食店を続けられているところは無いと思います。

そこで清一さんが思い出に残る事柄を幾つ

かお聞きしてみました。

高校生時代、学校へ通うのには当時塀のなかつた湘南キャンパスに入り、噴水横から出ていた平塚行の神奈中バスを利用されたそうでした。

そう、私が在学中の1970年の学園紛争を境に周囲に頑強な塀が出来てしまいました。

華仙を開かれてからの思い出は沢山おありと感じましたがその中から幾つか。

ゼミなどのグループで来店された中に化学科の学生やデザイン学課程の先生と学生は先発隊が来て席を確保し、遅れて残りの学生たちと先生が来られたそうで、今でも当時の学生が描いた似顔絵が店内に飾つてあるとの事です。

クラブ関係では鉄道研究会のメンバーが建学祭の時のジオラマに華仙ビルを建ててくれました。

近所の真田荘に住んでいた学生さんは何度も宴会を開いてくれ、卒業した今でも建学祭の折に訪ねてきてくださるそうです。

忘れてならないのはアルバイトで手伝つてくださった学生たちは2、3時限に授業があつても少ない昼休み時間にも仕事をしてくれて、学内で客の学生たちからも挨拶をされていたそうです。

今でも建学祭の時には多くの卒業生たちが訪ねて来られるので三代目の頭太郎さんには

## 浅利先生の訃報を受け取ったのは

田村 明 (73卒)

浅利先生の訃報を受け取ったのは、2019年11月15日でした。突然の連絡で葬儀に出席できたのは札幌在住の数名の卒業生だけでした。

そこで、翌年一周忌法要に全国に散らばっている卒業生たちが集まろうということになりました。しかし、翌年からは新型コロナのパンデミックのために県を超えての旅行禁止となり、一周忌どころか三回忌法要も行うことはできませんでした。

浅利先生が東海大学を退職しご夫妻で東京に立ち寄られた時に、東海大学札幌校舎の通信工学科第一期生を中心とした電気工学研究

会のメンバーが集まったのが始めではないかと思いますが、その後も札幌でOB会を開くなどの活動を行っていました。新型コロナの中でこれらのメンバーなどによって全国各地から週1回日曜日の夕方「Zoom」を使用したオンライン飲み会?を始めるなど親交を深めておりました。

新型コロナウイルスの感染状況に落ち着きが見られるようになり、やっと全国の有志が集まることのできたのが2023年9月で、先生が亡くなって4年もたっていました。

三重、愛知、岐阜、神奈川、東京、茨城など各地から札幌に集まり、浅利先生との出会いなど約50年の時間の隔たりを超えて学生時代の懐かしい話題に花が咲きました。

(写真の「東海大学電研OB会」は東海大学札幌校舎電気工学研究会OB会を略したもの)



「建学祭の3日間は仕事しなくて良いので店にいてくれ」と言われているそうです。

多くの人たちに愛されているお店だなどしみじみ思いました。

そういえば昨秋の建学祭の折には昼間から卒業生の人たちであふれていたとの話を最近耳にしました。

私は今でも時々食べに行かせて頂いております。特に学内の食堂が終わった夜など卒研や部活で遅くなつた学生たちの胃袋の支えとして頑張りが続いていると感じたいとお店を後に致しました。

# 松前達郎博士と通信工学

## 参与 松尾守之(61卒)

学校法人東海大学の第二代会長・松前達郎博士は、令和6(2024)年9月8日に97年の人生をまっとうされた。先生のご専門は金属材料工学であつたが、主として通信機器に用いられる接点などの機材を構成する金属材料の分野で貴重な業績を残された。

本会は、東海大学工学部通信工学科の卒業生を主体とした団体であるが、松前達郎先生のご指導を受けた卒業生もあり、また、先生が主として研究された金属材料の進化が、電話交換機などの通信機器の発展に多大な貢献をしたことなどから、本会の名誉会長として永年にわたり、ご指導を仰いできた。

時代も変わり、通信工学の分野も大きく変化したが、先生が通信工学の分野で残された偉業をもう一度振り返りながら、先生の遺徳を偲びたいと思う次第である。

### アマチュア無線

先生は昭和52(1977)年に参議院議員に当選された。その後間もなく、アマチュア無線の免許を取得された。もともと機械いじりや通信機に興味をもちておられたが、アマチュア無線の電波を出す、世界中の愛好者と交信ができて、その楽しみに凝った時期があつた。好きが高じて、自宅だけではなく車にも無線機を積み込むほどの凝りようであつた。自宅の屋根にもアンテナを設置しようとし、自ら屋根に上がって作業に熱中するあまり、庭に転落するというアクシデントも経験された。

通信工学科の卒業生の中には、アマチュア無線の免許を持っている者も少なからず居る。先生のごこうしたエピソードも通信工学同窓会との絆の一つとなっている。



参議院議員室にてアマチュア無線通信で交信

### 参議院通信委員会委員長

国会の通信委員会は、衆参ともに国の郵政や電気通信に関する法案を審議する機関である。戦後、家庭で使う電話機一つをとっても、その技術の変化は驚

異的であつた。電気通信機器の発展は、それまで政府が担ってきた日本電信電話公社(通称「電電公社」)をも民間会社(NTT)に変えるだけの力があつた。こうした国家的な電気通信の施策には、専門的な知識が必要なのは言うまでもない。日本の政治家の中で、通信工学に精通している議員は殆ど居ないと

言つていいだろう。そのため、政治家は国会に専門家を呼んで、参考意見を述べさせるのであるが、多忙である政治家にとつて、通信工学の一端を理解することは並大抵ではないと思われ。現代の通信工学分野は、海底から宇宙空間まで及び、それらを国の施策として法を整備しなければならぬ。政治家に課せられた国家何百年にもわたる重要政策を決めることである。昭和59(1984)年4月から60(1985)年7月まで先生は参議院通信委員会の委員長を務められた。国鉄や電電公社を民営化するという大事業を推し進めていた、当時の中曽根康弘首相のすすめもあつたと聞く。先生が野党でなく与党に所属していたら間違いなく郵政大臣になられていたと思う。

国会議員として4期24年間活動された政治家としての松前達郎先生は、国政の場でも通信工学とのかかわりの深い業績を残されたのである。

### A型自動交換機

アメリカで発明された電話システムは、当初、電話交換手による人手に頼る交換機を使用していた。その後、自動的に交換作業が行えるような自動交換機が発明され、その後も幾つもの改良型が研究されてきた。その中でも「A型自動交換機」と呼ばれる機種は、我が国の最初の自動交換機として大正15(1926)年にイギリスから輸入された。その後、A型自動交換機は、昭和5(1930)年頃から我が国でも製造されるようになった。

自動交換機の動作原理は、電話使用者がダイヤルを回すと、そこから発せられるインパルスが電話局の交換機に送られ、そのインパルスによって歯車のついた選択機構が上昇、次いで回転して相手の加入者の電話に接続するという方式である。

A型自動交換機が電話局に導入された当初は電話の普及、使用頻度から問題が起る状況にはなかつた。しかし、高度成長期に入った昭和30年代になると電話の利用が増え、また、市外電話も「0」発信で自動的にできるようになり、交換機の接点の摩耗損傷によって起る発火や、通信不能に陥るなどのトラブルが多発するようになった。特に、「0」に接続する部分の摩耗が激しく、接点不良を起すことが多発した。接点の不良から、その部分が過熱し、電話局の火災に繋がるような大事故も発生した。

自動交換機の接点部分は「バンク」と呼ばれ、利用者がダイヤルを回す度に発生するインパルスにより、固定化された馬蹄形の端子に沿って、もう一方のバンク端子を2枚のワイパーの先端部に摺動しながら回転し、回線の接続を完成させる方式である。この接点の金属材料が当時は真鍮製だったので、使用頻度の増加につれて摩耗損傷が進み、トラブルの原因となつた。

この問題を解決するために、電電公社の電気通信研究所にいた達郎先生は「耐摩耗性摺動接触子材料」というテーマを設定し、新しい接点材料の研究に取り組んだのだ。

60〜70種類にのぼる金属の組み合わせ合金を試作し、それぞれについて耐摩耗性の試験装置でしらみつぶしに調べた結果、銀・インジウム合金が適していることを突き止めた。この合金は、耐摩耗性に優れているだけでなく、摩耗によりワイパーから発生する酸化化合物の微粉が、逆にバンクを摩耗から守るという副次的効果を持つことも分かった。これにより交換機のメンテナンスの手間が省けたA型交換機は、昭和34(1959)年実用化されて全国に普及していった。

しかしながら、交換機の中に組み込まれた僅か数ミリ角の摺動接点を交換機の外からは見ることができない。そのため、電話システムにとって非常に重要な研究開発だったにもかかわらず、一般の方々には、この研究成果の重要性が理解されていないのが、残念ながら事実である。

A型自動交換機は昭和62(1987)年まで使われていたが、その後の通信技術の発展により電子交換システムに移り代わっていった。我が国最後のものとなつたA型自動交換機は、神奈川県相模原電報電話局橋本分局で使われていたが、電電公社から東海大学に寄贈され、現在、湘南校舎の松前記念館に展示されている。

### 研究者への道のり

#### 大学入学と専門分野の選択

達郎先生は、昭和22(1947)年、東北帝国大学工学部金属工学科へ入学した。この道を選ぶに当たって、父、松前重義から「金属材料が科学技術の全てを支配する」という助言があつた、という。

今から約80年も前の終戦直後の言葉ではあるが、現在、世界は金属材料の一種である半導体の確保に凌ぎを削っていることや、通信機器には欠かせない稀少金属(レアアース)の争奪に地域紛争も起つている現状がある。まさに、父・重義の言葉通りになっている。

達郎先生は、高校時代からGHQのアルバイトなどを通して、「金属材料の性能向上が電子機器や通信機器の進化の決め手になる」とことを実感していた。戦後間もない我が国の科学技術は遅れていて、高度な技術が必要とする機器の開発には欧米からの輸入に頼らざるを得ない状況にあつた。父・重義も「このままでは日本の将来はない」と、東北大学の指導教官から言われてきた。

しかしながら、金属材料の研究は華々しい成果を出せる訳ではなく、地味な研究分野であることには変わりがなかつた。

東北大学での研究は、X線解析装置や金属顕微鏡、電気抵抗測定器などを使いながら、非鉄金属の特性を調べる作業が主だった。電気炉で溶かした金属

を試験管に取って詳細に調べるなど、講義以外に、実験の授業も多かった。「いい技術者になるぞ」という意気込みで勉学に励んだのだ。

東北大学での最大の研究テーマは、半導体に使うケイ素の性能アップだった。当時、半導体に使う金属材料の純度を上げることは重要な社会的な課題でもあつた。

坩堝に入れた素材を高温で溶かすとき、超微細な不純物を如何に減らすかに重点を置いて実験を重ねた。その結果「高周波発信コイルの中に純度を上げた金属材料を置いて、高周波振動で不純物を浮かせたのち、それを取り除く」という方法を開発できた。しめた、と思つていたら、この方法は既に米国では導入されていることが分かり、研究仲間と共に落胆した経験があつた。このように、実験では試行錯誤の連続ではあつたが、やりがいにはあつた。

やがて大学を卒業する時期が来る。同期生の殆どが鉄鋼、軽合金、銅合金などの企業に就職していったが、達郎先生は、3人の同級生と共に公務員試験を受けて東北大学に工学部の助手として就職した。そして、大学では、金属材料研究所で研究を続けることになった。

### 電気通信研究所への転職

昭和25(1950)年に東北大学工学部を卒業した達郎先生は、同大学工学部の金属材料研究所で研究に携わるようになっていった。それから約1年ほどが過ぎた頃、「電気通信研究所に研究員の口がある」と所長の増本量先生から告げられた。大学での研究の面白さに没頭していた頃であつたが、将来の科学技術の発展などを考え電電公社の電気通信研究所に転職する決意をした。

戦前からあつた通信省は、昭和24(1949)年、郵政省と電気通信省に分離された。さらに電気通信省は、昭和27(1952)年、日本電信電話公社(電電公社)の設立によって廃止された。

電電公社の中には電気通信研究所が設置され、電話事業をはじめとする通信分野のさまざまな研究が行われていた。

電気通信研究所では基礎研究部門に配属された。最初に取組んだ

研究は、X線解析装置や金属顕微鏡、電気抵抗測定器などを使いながら、非鉄金属の特性を調べる作業が主だった。電気炉で溶かした金属



NTT西東京支社から東海大学に寄贈された沖電機工業株式会社製作のFinal Step By Step Switching

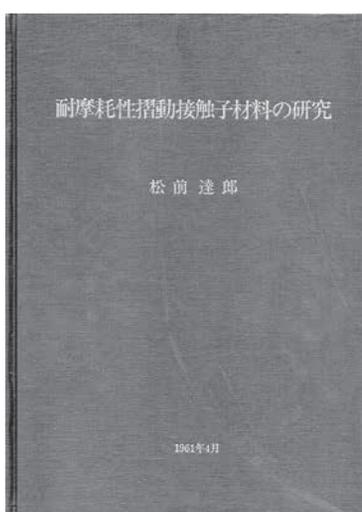


ステップ・バイ・ステップ自動交換機の動作試験を行う松前達郎先生

換局の操作盤の摩耗損傷の問題改善であつた。その当時、全国即時ダイヤル化が急ピッチで進められていた。これはダイヤルを回せば市外や県外に即座につながるシステムであり、このための交換方式は「ステップ・バイ・ステップ」と呼ばれる機器であつた。しかしながら、自動とはいへ、この交換機は電話交換局のオペレーターがワイパーという上下にステップする操作盤の数字を押しつけて相手につなげる方式であつた。操作盤は銅の合金製であつた。市外局番の最初の数字が「0」なので、「0」に対応する操作盤の使用頻度がどうしても高くなつてしまひ、その部分だけが先に摩耗損傷してしまひ、という現象が起つた。このため、銅合金に代わる金属材料を見つけ出すのが課題となつた。長い試行錯誤の末にたどり着いたのは銀と白金の合金だつた。このヒントが得られたのは、中国の端溪の硯だつた。硯の表面を分析すると、表面に摩耗を防ぐ金属粉が塗布されていて、それが金と白金の成分に似ていることを発見したのがきっかけとなつた。

学位の取得―学問の府へ

昭和36(1961)年、電気通信研究所を退職し、東海大学工学部応用理学科金属材料工学専攻の助教に就任した。教壇に立つ日々がはじまり、「真の教育者とは如何にあるべきか」、などを考え続けた。その一方で自分の研究も大切にしたいと思ひ、これまでの研究成果を「耐摩耗性摺動接触子材料の研究」としてまとめ、母校の東北大学に提出した。昭和37(1962)年、先生は東北大学から工学博士の称号を授与された。



### 謝辞

本稿を執筆するに当たり貴重な資料のご提供を頂いた左記の方々に感謝申し上げます。

学校法人東海大学理事 山田清志先生  
学校法人東海大学学園史資料センター

### 参考資料

松前達郎学位論文「耐摩耗性摺動接触子材料の研究」(1961年)  
松前達郎著「希望を星につなげ―我が人生」(1961年)  
日経B P社(2023年)  
東海大学湘南校舎松前記念館展示資料

# 2023年度 収支決算報告ならびに監査報告

以下のとおり2023年度通信工学同窓会の収支報告をいたします。

2024年4月1日

会長 小林 一雄 (印)  
会計理事 澤田 茂洋 (印)  
(押印省略)

自：2023.4.1～至：2024.3.31

## 1.一般会計 (収入の部)

科目	予算 (a)	決算 (b)	執行率 (b) / (a)	〈参考〉2022年度	記事
1.TASC会員納付金	1,000,000	1,242,228	124%	105,848	185名
(1) 会費	900,000	959,848	107%	35,848	181名
(2) 寄付金	100,000	282,380	282%	70,000	46名
2.その他の収入	30,000	180,013	600%	16	
(1) 行事参加費	0	0	-	0	
(2) 会報広告掲載料	0	150,000	-	0	
(3) 同窓会支援金	30,000	30,000	100%	0	
(4) その他の寄付金	0	0	-	0	
(5) ご祝儀	0	0	-	0	
(6) 受取利息	0	13	-	16	
(7) その他の収入	0	0	-	0	
<b>当期収入合計</b>	<b>1,030,000</b>	<b>1,422,241</b>	<b>138%</b>	<b>105,864</b>	
3.前年度繰越金	2,159,864	2,159,864	100%	2,282,627	
<b>収入の部合計</b>	<b>3,189,864</b>	<b>3,582,105</b>	<b>112%</b>	<b>2,388,491</b>	

## (支出の部)

科目	予算 (a)	決算 (b)	執行率 (b) / (a)	〈参考〉2022年度	記事
1.運営費	177,000	206,083	116%	67,128	
(1) 通信費	10,000	22,566	226%	4,122	
(2) 会議費	50,000	53,914	108%	0	
(3) 交通費	20,000	24,678	123%	0	
(4) 旅費	0	0	-	0	
(5) 事務消耗品費	5,000	9,246	185%	0	
(6) 情報処理システム費	62,000	61,600	99%	61,600	
(7) 慶弔費	0	0	-	0	
(8) 振替払手数料	10,000	34,079	341%	1,406	(32,319+1,760)
(9) その他の費用	5,000	0	0%	0	
(10) 予備費	15,000	0	0%	0	
2.事業・行事費	1,380,000	1,234,946	89%	210,000	
(1) 会報発行・会費徴収	1,100,000	1,023,596	93%	0	
(2) 春の講演会	0	0	-	0	
(3) HCD運営費	100,000	31,350	31%	30,000	
(4) 支部運営支援費	0	0	-	0	
(5) その他事業・行事費	0	0	-	0	
(6) 名簿発行	0	0	-	0	
(7) 名簿発行積立金組入	180,000	180,000	100%	180,000	
(8) HCD広報・講演会 (再掲)	(380,000)	(0)	(0%)	(0)	
<b>当期支出合計</b>	<b>1,557,000</b>	<b>1,441,029</b>	<b>93%</b>	<b>277,128</b>	
3.次年度繰越金	1,632,864	2,141,076	131%	2,111,363	
<b>支出の部合計</b>	<b>3,189,864</b>	<b>3,582,105</b>	<b>112%</b>	<b>2,388,491</b>	

## 2.特別会計 (名簿発行積立金)

科目	予算 (a)	決算 (b)	執行率 (b) / (a)	〈参考〉2022年度	記事
1.前年度末残高	540,000	540,000	-	180,000	
2.今年度組入金	180,000	180,000	100%	180,000	
3.今年度払出金	0	0	-	0	
<b>4.今年度末残高</b>	<b>720,000</b>	<b>720,000</b>	<b>100%</b>	<b>360,000</b>	

## 監査報告

2023年度の東海大学通信工学同窓会の収入および支出は、関連の帳簿並びに証券の管理を含め、その執行は適切であり、貸借対照表並びに収支計算報告書はその状況を適正に表していると認められる。

令和6年4月26日 東海大学通信工学同窓会

監事 室本 惇 (印)  
監事 秋山 進 (印)  
(押印省略)

### 2024年度 本部組織紹介

<p>監事 秋山 進</p> <p>総務理事 室本 惇</p> <p>企画理事 福原 雅</p> <p>広報理事 土岐 晴美</p> <p>会計理事 中井 茂宏</p> <p>事務局長 澤田 信一</p> <p>副会長 柳田 真一</p> <p>会長 小林 一雄</p>	<p>参  問  松尾 守之</p> <p>名譽会長 故・松前 達郎</p> <p>名譽副会長 松前 義昭</p>	<p>名譽会長 松前 達郎</p> <p>名譽副会長 松前 義昭</p> <p>学  長  松尾 守之</p> <p>理  事  長  松尾 守之</p> <p>総  務  長  松尾 守之</p> <p>先  生  松尾 守之</p>	<p>(72卒)</p> <p>(69卒)</p> <p>(02卒)</p> <p>(88卒)</p> <p>(94卒)</p> <p>(72卒)</p> <p>(86卒)</p> <p>(78卒)</p> <p>(72卒)</p> <p>(66卒)</p> <p>(62卒)</p> <p>(62卒)</p> <p>(61卒)</p> <p>名譽教授</p> <p>名譽教授</p>
---	---	--	--

## 新生ビルテクノ株式会社

オーダーメイドの「高品質サービス」で  
安心な未来をサポートします。

清掃

創業から受け継がれる  
「物造り」のこだわり

設備管理

ビルへ命を吹き込む  
技術と人

本社 東京都文京区千駄木 3-50-13  
支店 横浜・大阪・名古屋・北関東・千葉・川口・仙台・福岡・新潟・小千谷・札幌

創業30年

# ふわりゅう

梅島本店  
東海大学店 (学生食堂)

## icp 国際通信企画株式会社

International Communication Planning Co., Ltd.

41 YEARS ANNIVERSARY

MAKE OUR FUTURE with i GROUP

あなたの未来をつなぐ技術  
いままでも、そしてこれからも

**<業務概要>**  
システムの設計・検査・保守及び施工  
衛星通信・移動体通信・光通信  
NW・IP技術など  
全国案件・海外案件も対応!

**i GROUP (アイグループ) 企業のご紹介**  
(株) インテリジ' エントシステムズ  
エフソン製の複合機・プロジェクトや  
メディカル及び歯科医院向け遠隔レント  
ゲンスイッチ・災害医療用VSA T等  
各種販売から施工・保守まで対応。

(株) エイ・エフ インターナショナルトレーディング  
中古車の買取・オークション代行業務を  
対応。市場への直接販売・仕入れにより  
格安対応可能。個人・法人共に  
お取引実績多数有り。

(株) シルバ' - エック' ス  
家系図の制作・販売を対応。ご自身の  
大切なファミリーヒストリーを記念  
として作成される方が増えており  
大変ご好評いただいております。

本社：神奈川県横浜市港北区新横浜1丁目19番2号 TEL：045-470-1331 URL：https://icp.igrp.jp

### 編集後記

2023年度の会報発行に続き、今年も無事に会報を発行できるようになりました。理事会ではこれまでのような活動に戻せるよう、役員が一丸となって取り組んでおりますが、なかなか思うように進まない面もあります。今回の会報発行に際しても、「記事の収集をどうするか」、「記事を誰に書いてもらうか」など、苦労いたしました。会員の皆さんにおかれましても、遠慮することなく、記事を寄稿していただきたいと思います。皆さんの身の回りに起きている、些細な事柄でも構いません。近況報告でも構いません。お気軽に投稿をお願いします。

昨年は、新年早々能登地方を襲う震災、8月の台風による豪雨と能登地方を自然災害が襲いました。東海大学の学生さんも少なからずの方が被災され、学業を断念された方もいらっしゃいます。被災された方々には、謹んでお見舞い申し上げます。